

春分儀式

I :: O :: S :: 儀式魔術文書 VE09A



THE OFFICIAL ORGAN
OF

I :: O :: S ::

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I :: O :: S ::

THE VERNAL EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I :: O :: S :: ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春分点の前後48時間以内に実施すること。2009年の春分点通過は3月20日(金)20時44分(日本標準時)である。儀式内容は、起誓言の公式を利用して春分の祝祭を実施する。

1 アラム語魔術テキスト

(1) アラム語呪符鉢 (Aramaic Incantation Bowl)

アラム語魔術テキストは、さまざまな出土品から確認できるように、古典古代前期から後期にかけて、『魔術パピルス文書』群や、当時の民間信仰に影響を受けて、ヘブル語ではなく、土俗的なアラム語で形づくられた魔術である。

魔術テキストの非常に大きな部分を構成するのが、魔術的目的で焼かれた陶器の壺または鉢である。アラム語魔術鉢の研究は、19世紀から本格化し、モントゴメリーの『二プルのアラム語呪符テキスト』(1913年)により大ブレイクする。⁽¹⁾

バビロニアの二プルから出土した呪符鉢は、多くが直径16センチ、深さ5センチ程度のお椀型であった。⁽²⁾ 他の地方で出土した魔術鉢もおおむね同様の形をしている。魔術鉢は部屋の隅に置かれたり、埋められたりした。初期の研究では、邪霊を吸い込み、封縛する特殊なアミュレットとして機能すると考えられたが、今日では否定されている。⁽³⁾

悪魔を封印する壺は首長のクムクムという種類であり、上方が開き、多くは内側に呪符が描かれ、底には紋章や魔術的な絵姿が描かれる魔術鉢は、魔術に人間の頭蓋骨が使用された時代のなごりであるとも言う。⁽⁴⁾

内側に螺旋状に呪符を描く場合は、底から始まり右回りに鉢の縁まで描かれる場合が多い。⁽⁵⁾ この円形の縁を魔法円に擬する場合もある。

文字を書き込むため、口の広いお椀型が最適であった。しかし、ゴブレット型や花瓶型の魔術鉢も少数存在する。

古典古代の魔術世界では、3大魔術とはエジプト魔術、カルデア魔術及びユダヤ魔術であった。ユダヤ魔術は古代カナンの香りを残し、長期のバビロン捕囚により、バビロニア魔術をも吸収していた。⁽⁶⁾ 魔術文の様式を解析するとバビロニア・アラム語の民衆の文法が使われており、バビロニア・タルムードの定型文とは一致しない。⁽⁷⁾



(1) J.Naveh & S. Shaked, *Amulets and Magic Bowls*, Jerusalem : Magnes Press, 1985, p.19.

(2) J.A.Montgomery, *Aramaic Incantation Texts from Nippur*, Philadelphia : University of Pennsylvania Museum, 1913, p.13.

(3) Charles D. Isbell, *Corpus of the Aramaic Incantation Bowls*, Eugene : Wipf and Stock Publishers, 1975, p.13.

(4) Cyrus H. Gordon, *Adventure in the Nearest East*, London : Phoenix House Ltd, 1927, p.162.

(5) Dan Levene, *Curse or Blessing*, Southampton : University of Southampton, 2002, pp.11f.

(6) Montgomery, op. cit., p.106.

(7) C. Muller-Kessler & T. Kwasman, "A Unique Talmudic Aramaic Incantation Bowl", in *The Journal of the American Oriental Society*, Vol.160, Issue 2, American Oriental Society, 2000, p.159.

(2) 魔術の原理

カバラの箴言に「容器（¹כּוֹל）の助けなしに、いかなる魔術も効力なし」がある。ご承知のとおり、ケリ（複数形：ケリム）とは獅子のカバラでいう「容器の破壊」の神話に出てくる創造初期の宇宙の隠喩である。

魔術鉢はケリではなく、ケシャ（²כֶּשֶׂא）、コーシャ（³כֶּוֹשֶׂא）、そしてごく少数例だがケティヨー（⁴כֶּטִּיּוֹ）と呼ばれる。その語源は「抑圧」（キブシャ ⁵כִּבּוּשׁ）である。これはラテン語の「封縛」（defixio）と同じ意味である。

逆さにした呪符鉢は邪悪な霊を抑圧・抑制を象徴し、その実効をあらしめる。⁽⁸⁾

(3) 魔術の構文

レベーンの主張によれば多くのテキストは三つの部分に分かれる。個人所蔵の呪符を例に、かれは次のように解説した。⁽⁹⁾

最初に、魔術目的や魔術の性質に関する全般的な宣言がある。

「汝が名前により、われは（この魔術的行為を）なす。」

次に、利用者の名前、家族の名前などが記録される。

「封印され、反封印されしは、イスパンドルミドの子アハイ、妻キオマタの家屋、居住者、所有物、息子、娘、駱駝、胚珠、種子、たましい、そして家人すべてである。

かれらは、悪魔、迫害者、男女の人形、男女のリリス、妖術師／女妖術師、邪眼、邪悪な妬み、そしてすべての悪から、封印され、反封印される。」

最後に神の名前、魔術的名前などで強化される。

「YH YHVHサバオトの御名により、封印され、反封印される。

アーメン、アーメン、セラー、ハレルヤー、ハレルヤー。

モーシェが語りしごとく・・・（『出エジプト記』3章13、14の記述等が続く。）」

最後の部分に使用される魔術的名前は多彩である。正しくアプレイウスのいう「エジプト及びバビロニア儀式の魔術名」（magica nomina Aegyptio vel Babyloniaco ritu）が氾濫している。ペルシア語起源の神ディーヴァ（⁶דייבא）や、アッカドの神シェドゥウが転訛したシェド（⁷שֶׁד）なども散見される。それらは「野蛮な擬声語（barbarica onomata）」として力を発揮するのである。魔術の公式では、書かれた文字は発音されたのと同等の効果を有するからだ。⁽¹⁰⁾

神聖名については、略語で表示される場合もある。

「AAAAAAの御名により、・・・セラー、AAAAAAのもとに」

アレフを六回繰り返すのは、⁸אל אלהים אלהים אלהים אלהים אלהיםの頭文字である。同様に八回繰り返した例もある。⁽¹¹⁾

「聞けイスラエルよ、YYYY われらの神はおひとり YYYY」

この場合は、聖四文字 ⁹יהוהの変形略語である。同様にYY（¹⁰י）やYYY（¹¹יה）の例もある。⁽¹²⁾

(4) ヘハロース文献群との類似

ダヴィラの指摘によれば幾つかの魔術の鉢にはヘハロース文献群との類似が認められる。そ

(8) Montgomery, op. cit., pp.42-44.

(9) Levene, op. cit., pp.16ff.

(10) Montgomery, op. cit., p.59.

(11) Montgomery, op. cit., p.201.

(12) Montgomery, op. cit., p.210.

れは律法の宰相への言及であったり、天使による加護であったり、上昇への言及であったりする。一般に魔術の鉢に書き込める呪符は短いため、その類似点は断片的である。⁽¹³⁾

へハロース文献群には、ショーレムが定義した神的賛歌 (numinous hymns) と呼ばれる部分がある。⁽¹⁴⁾ 呪歌であるが、総じて長くなるので魔術鉢には記録されていない。

2 司官の配置

(1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (P C)、すなわち「先導者」の1名である。

P Cは、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い。白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体 (かれらはアストラル体と呼称) を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間 (Robing Room) において、光の法衣を纏う。

(2) トーラーの宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上が「肉の衣を去る」までは、実効上の神 (天使を使役する者) として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

4 魔術の技法的側面

(1) 封印の受肉

起誓言などを多用するメルカバ神秘主義において、「封印 (□□□□)」は護符 (amulets) に記されて術者が携行するほか、術者の肉体に直接書き込まれる場合があった。⁽¹⁵⁾

マーヴィン・メイヤーらは、コプト語呪文の研究のなかで、ギリシャ語の聖なる七母音が神像の胸に入墨されている例を示した。⁽¹⁶⁾

バル・イランは、『マセー・メルカバ』の「七の封印」を例にとり、次のように述べた。

「封印がどのように刻印されたか、さだかではない。祈祷する神秘家の四肢に封印が刻印され、神聖なる霊視を得るための不可分的手段となっている。」⁽¹⁷⁾

(13) James R. Davila, *Descenders to the Chariot*, Boston : Brill, 2001, pp.218-222.

(14) Gershom Scholem, *Jewish Gnosticism, Merkabah Mysticism, and Talmudic Tradition*, New York : The Jewish Theological Seminary of America, 1965, p.21.

(15) Janowitz, *Icons of Power*, pp.79f.

(16) Marvin Meyer, *Ancient Christian Magic*, Princeton : Princeton University Press, 1999, pp.231, 280.

(17) Lesses, *Ritual Practices to Gain Power*, p.317f.

(2) 聖四文字の呼吸

聖四文字の呼吸においては、ベリマーが世界が流出を開始する以前の「無の性質」に直結し、マーが流出後の「有の性質」を表現する。

呼吸法において、「𐤅」を詠唱する際は、「ヨー・ヘー」と発声する。瞑想中は、呼吸する際に喉を空気が通る音ぐらいの高さで囁く。息を吐きつつヨーと詠唱し、息を吸いしつつヘーと詠唱する。その際は、心中にそれぞれの文字を視覚化する。⁽¹⁸⁾

息を吸いながら発音するのは難しいが、無理に大きな声を出す必要はない。その音は術者の心のなかに響きわたれば良いのである。

今回は、すでに境界を跨いだアストラル・ライトのなかで、「無の性質」を象徴するヨド・ヘーの呼吸と「有の性質」を象徴するヴァウ・ヘーの呼吸を併用し、祭壇の上に「有と無の融合」を現出させる。

(3) 呪歌の力

本儀式においては呪歌を使用する。

ヘブル語においてシーラー 𐤅𐤅𐤅𐤅 (複数形シーローズ 𐤅𐤅𐤅𐤅𐤅𐤅) とはシャントを意味する言葉である。『申命記』第31章に説明されるとおり、折りに触れユダヤの民が歌うようにと定められた歌のことだ。

ラビ・シェファール・ゴールドによれば、シャントの恍惚体験は全き献身による観想的空間への移行を可能とする。観想的沈黙の文脈のなかにおいてシャントの力が深化し、発展するための空間が作り出される。シャントは『詩編』23章5に示された「溢れる盃」(コシ・ルバヤ 𐤅𐤅𐤅𐤅𐤅𐤅𐤅𐤅) である。そして、あふれる盃には2種類があり、シャントを唱える者たちのなかに生成される。

第1の盃は、各人の心臓の上にある内的な盃であり、盃には生命と愛の源泉から途切れることのない流れが注ぎ込まれあふれ出ている。シャントは、その流れと自分自身を再結合する。

第2の盃は、シャントを唱える集団のなかに生成される。唱和するシャントの音と、注意力の共有が盃を生む。その盃には神聖な流れが注ぎ込んでおり、集団に属する誰でも盃からあふれる神聖な流れに触れることができる。⁽¹⁹⁾

(4) 呪符等の構成

ヘブル語の神聖名は、文字として書かれた場合でも声に出して歌うのと同等の効力を発する。しかし、シャントを正しく用いると特別な効果が生じるのは前出のとおりである。

『マナセの祈り』に曰く「神は深淵を閉じ、力強く誉れある自らの名で封印した」⁽²⁰⁾

呪符については、『アラム語呪符』を主用した。一部へハロース文献群から借用してものもある。⁽²¹⁾ 聖四文字の文字を分解して使われるシャント及びヘブル語の各文字を連唱するシャントは各所で用いられている。⁽²²⁾

(18) Gershon Winkler, *Magic of the Ordinary*, Berkley: North Atlantic Books, 2003, p.30.

(19) Rabbi Shefa Gold, "That This Song May Be a Witness : The Power of Chant", in *Meditation from the Heart of Judaism*, Woodstock : Jewish Lights Publishing, 1997, p.85.

(20) The Player of Manasseh, in *The Old Testament Pseudepigrapha*, New York : Doubleday, 1985, p.634.

(21) Montgomery, op. cit., .

(22) 一例として、Joseph Naveh & Shaul Shaked, *Amulets and Magic Bowls : Alamaic Incantations of Late Antiquity*, Jerusalem : The Magnes Press The Hebrew University, 1998, pp.44-49.

(5) 黎明視

視覚情報の混乱による幻視「シャルル・ボネ諸侯群⁽²³⁾」、言語入力 of 混乱、呪文の反復（単純類似構音の連続による記憶操作⁽²⁴⁾）などを利用する。

5 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

今回も、シナリオ文書を単純化したので記憶してもらいたい。黎明視の妨げとなるので、テープの録音も不要である。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

(23) <http://jiten.com/dicmi/docs/k12/17252s.htm>

(24) グザヴィエ・スロン 『認知神経心理学』 白水社、1995年、63、64頁。

第2章 儀式

1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化させる。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたIOSの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話の形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 物見の塔の儀式

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なPCの動作を視覚化する必要はない。

4 入場及び宣言

PCは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。

兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹は左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

PC：「I ∴ O ∴ S ∴ の兄弟姉妹たちよ。春分の儀式を開始せん。」

5 律法の宰相の召喚

PC：「七つの封印を光体に刻印せん。」

PCは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もPCの動作に倣う。

PC：聖名とともに唱える。「アブリース ススティイー。わが脚を封じる。」

(אָרִיִּם סַסְתִּיִּי)

全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。

PC：聖名とともに「アバグ バググ。わが心臓を封じる。」 (אָבִיגָד בָּגָג)

全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。

PC：聖名とともに「アリム ティパー。わが右腕を封じる。」 (אָרִיִּם תִּיפֶּאֶר)

全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。

PC：聖名とともに「アブリース セシー イアー。わが左腕を封じる。」

(אָרִיִּם תְּסִיִּי אִיֶּאֶר)

全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC：聖名とともに「アビス セル バグ エル ヤーブ ドゥーエル。わが首を封じる。」

(אָבִיט סֶל בָּג אֶל יֶאֶרְבֵּד דּוּעֶל)

全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC：聖名とともに「アブ パク キテル スス エイカド ヤドヤド ヤー。わが生命とすべての部分を守護するために。」 (אָבִי פֶּאָק קִיטֶל סַס אֵיכָד יָדִידִי יָאֶרְבֵּד)

全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC：聖名とともに「オーブ パス ヤーウ キーブ ヨー ザハブ ヤーウ ティティス。わが天蓋を封じる。」 (אָוֶב פֶּאָס יֶאֶרְבֵּד קִיבֵּב יוֹ זָהָב יֶאֶרְבֵּד תִּיטִּיִּס)

全員：「わが天蓋を封じる。」

PCは封印の完成とトーラーの宰相への呼びかけを行う。

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。

四風を聖化するは、われなり。

五界を結ぶは、われなり。」

6 四風の聖化

PCは東を向いて宣言する。

「I ∴ O ∴ S ∴ の神殿に四方位の風を召喚せん。」

神殿の東壁の中央に扉が現れた。

PCは、東に向い高らかにヘブル語を詠唱する。それは、四方位の風をふるわせる呪歌である。

PC：「エロウイイー

('אֱלֹהִים わが力の根元よ。)

ネシャマー・シェー・ナタフター・ビー

('בְּיָדְךָ שְׁמַח וְשִׁמְחָה שְׁמַח 汝が授けし息吹よ。) ⁽²⁵⁾

テホラー・ヒー

('טָהוֹרָה 所は清浄なり。)

アター・バラター

(אֵתָה בְּרָא אֵתָה 汝がそを創造せり。)

アター・ヤツアルター

(אֵתָה יָצַר אֵתָה 汝がそを形成せり。)

アター・ネファクター・ビー

('בְּיָדְךָ אֵתָה נִפְחָה אֵתָה 汝はそを我に吹き寄せる。)

ヴェ・アター・メシムラー・ブキルビー

(וְאֵתָה מְשַׁמֵּרֶת בְּקִרְבִּי 汝は我がうちにあるそを監視する。)

ヴェ・アター・アティード・リット・ラー・ム・メフニイー

(וְאֵתָה אֵתָה לִמְלָאן מִמִּפְנֵי 汝はいつかそを我より取上げる。) 」

全員：「バラフター・ヴェ・ヤツアルター

(אֵתָה יָצַר אֵתָה בְּרָא 創造と形成) 」

PCは、東の方向に宝瓶宮のサインを描く。

PC：「ヒー・ネイ・ニー ('נִי הֵןנִי われはここに)

ヒー・ネイ・ニー ('נִי הֵןנִי われはここに)

ヒー・ネイ・アーニー・ヤー ('נִי אֵנִי הֵןנִי われはここに、神の息吹の)

アナ・ホウシーアー (אֵנִי הֵןנִי אֵנִי 加護のあらんことを) 」

全員：「ヤー・アナ・ホウシーアー

(אֵנִי הֵןנִי אֵנִי הֵןנִי 息吹の加護あらんこと) 」

PCはヨド・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

PC：「ヨー」 (呼気) 「へー」 (吸気) 「ベーリー・マー」 (無の性質を強く意識する。)

全員：「ヨー」 (呼気) 「へー」 (吸気) 「ベーリー・マー」 (無の性質を強く意識する。)

東の壁いっぱい、黄色い照り返しを浴びた雲海がひろがる。

雲海は下から湧きあがる雲の断片で沸騰するようだ。

その黄色い雲の渦の中心に、仄かな薄暗い陰が生まれる。

その陰は人型をつくる。人型の頭部が紫色の光を放つ。

(25) 来る (בוא) の変化形 (ב') は、「霊が我がうちに入りたり (וּתְבֹא בִּי הַרוּחַ)」 (『エゼキエル書』2：2) のように使われる。

これはエロヒムの影だ。

P Cは、祭壇の南に回り、南の方向に獅子宮のサインを描く。

P C：「アーニー・ボー (אָנִי וְעַמִּי われと名前なきもの)
アーニー・ボー (אָנִי וְעַמִּי われと名前なきもの)
エロヘイ・イスラーエル (אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל 主の力よ)」

全員：「エロヘイ・イスラーエル (אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל 主の力よ)」

南の壁いっぱいに、紅蓮の炎が燃えさかる。
爆発的な溶岩の噴出、燃え上がる硫黄の噴煙を炎の陰に垣間見る。
その炎の壁のただなかに、巨大なたてがみのある生き物が見える。
強靱な爪のある筋肉の束が炎を掻き分ける。
それは獅子のすがたをもつ炎である。

P Cは、祭壇の西に回り、西の方向に天蠍宮のサインを描く。

P C：「アーニー・ボー (אָנִי וְעַמִּי われと名前なきもの)
アーニー・ボー (אָנִי וְעַמִּי われと名前なきもの)
ホウシーアナ (הוֹשִׁיעָה נָּא われを助けよ)」

全員：「ホウシーアナ (הוֹשִׁיעָה נָּא われを助けよ)」

P Cはヴァウ・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

P C：「ヴァウ」(呼吸)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)
全員：「ヴァウ」(呼吸)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

西の壁いっぱいに、ブルー・オーシャンがひろがる。
それは砂浜近くの明るい海水ではなく、海底の伺えない深海の青黒い海原である。
小島ほどもある巨大なうねりが押し寄せてくる。
その大うねりの海水の表面に、途方もなく巨大な翼ある生き物の影が映る。
それは鷲の翼のようである。

P Cは、祭壇の北に回り、北の方向に金牛宮のサインを描く。

P C：「アーニー・ボー (אָנִי וְעַמִּי われと名前なきもの)
アーニー・ボー (אָנִי וְעַמִּי われと名前なきもの)
エレッツ・カーナーニー (אֶרֶץ כְּנָעַן カナンの地よ)」

全員：「エレッツ・カーナーニー (אֶרֶץ כְּנָעַן カナンの地よ)」

北の壁いっぱいに、乾いた大地がひろがっている。
地平線の彼方には、雲をまといつかせた山脈が遠望できる。
彼方の雪の峰から手前にかけては、なだらかな丘陵地帯になっており、
その丘の上に角のある生き物の影が射す。
生き物は牡牛のように見える。

7 救済者の顕現

PCは、祭壇の東に回り、西面する。全員が西面する。

PCは祭壇に置かれた一枚のタリズマンを取り出し、両手で掲げて西に向け額より高く掲げる。

PC：「ビシュマーク・マリ・アスター

(בשמך מרי אסותא 汝が御名により、救済者よ) 」

全員：「ビシュマーク・マリ・アスター

(בשמך מרי אסותא 汝が御名により、救済者よ) 」

タリズマンを祭壇に戻し、右腕を北にむけ、掌を下に向け水平に伸ばす。

全員が右腕を北にむける。

PC：「ラース・ミーン・セリーク・ワトレーフエ・ダス・ミン・メナ

(לאס מין סליק ואטרפי דאס מן מנא)

エナス・ラス・ラ・セリーク・ワトレーフエ・ダス・エナス

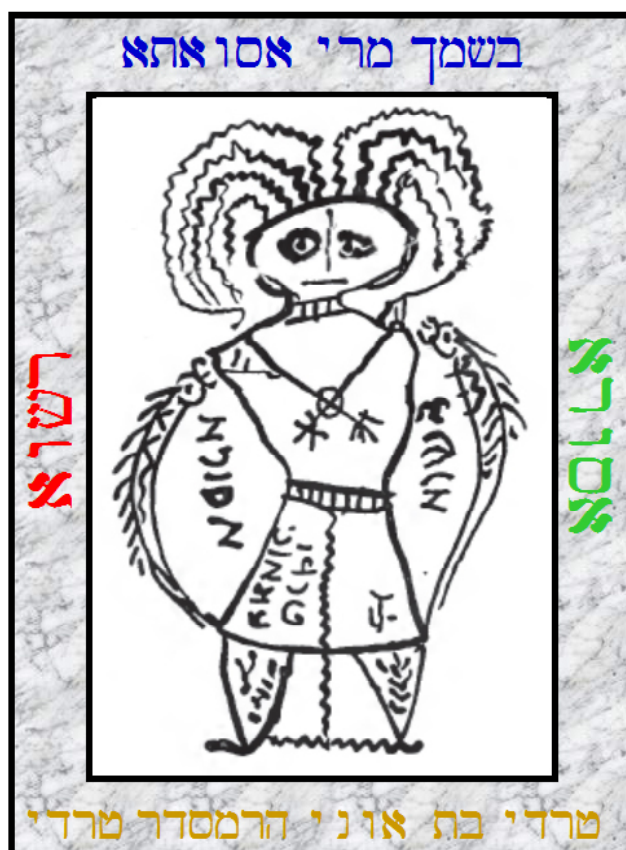
(אינש לאס לא סליק ואטרפי דאס אינש)

右手に抑制者あり。」

全員：「ラース・ミーン・セリーク」 (לאס מין סליק)

右手に抑制者あり。」

「右手に抑制者あり」と言うと同時に右の手の甲にチクリと刺すような感覚を覚える。



右腕を脇に戻し、左腕を南にむけ、水平に伸ばす。全員が同じ動作をする。

PC：「メナ・パイブデン・ヴェナス・ラス・ラス・ラ・セリーク

(מנה ביהדין ואינש לאס לא סליק)

ワトレフェ・ダス・エナス
(וַטְרֵפֶּה דַּסּוּס עֵנָס)⁽²⁶⁾

左手に解放者あり。」

全員：「ワトレフェ・ダス・エナス (וַטְרֵפֶּה דַּסּוּס עֵנָס)
左手に解放者あり。」

「左手に解放者あり」と言うと同時に左の手の甲に暖かい吐息のような感触を感じる。

左腕を脇に戻し、直立する。全員が同じ動作をする。

PC：「祈りの声を聞かれない。偉大にして強大なる主よ。
高貴にして慈悲深き君よ、その眼差しは被造物にあまねく下される。
汝が従僕たる祈り手に向き直り、好意を持ち答えたまえ。
全宇宙の主よ、万物の造り主よ、宇宙の一者よ。
わが叫びに答え、天の門を開きたまえ。
汝が膝下にある貴顕の御名を召喚するものなり。」⁽²⁷⁾

PCが高らかに唄い始める。

PC：「リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
(לִי יֵהּ שְׁוֹ אַטְּ צָרִי קִי בִּי תִי שָׁרְדִי 汝が導きにわが望みを主よ。)
キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー
(לִי יֵהּ שְׁוֹ אַטְּ צָרִי קִי בִּי תִי שָׁרְדִי 我が望みを主の導かれるままに。)
シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー
(לִי יֵהּ שְׁוֹ אַטְּ צָרִי קִי בִּי תִי שָׁרְדִי 主の導きに我が望みを。)」

PC：「サティームー・ヴェ・グー・リアー (סַתִּימוּ וְעֵ גֹוּ לִיָּא)」

全員：「隠され開示されたり。」

聖化した四方位の風に取り巻かれ、救済者の現前のもと、春分の秘儀にあずかる。

PCは、神殿の北に行き、南を向いて言う。

「この場は、光と闇の至聖処なり。
今、頭上に春分の太陽があり、
光は闇と均衡せんとしている。
われは律法の宰相として、
春分の執行を宣言する。」

(26) J.A.Montgomery, *Aramaic Incantation Texts from Nippur*, Philadelphia : University of Pennsylvania Museum, 1913, p.185, 201 (plates 15&20) .

(27) James R. Davila, *Descenders to the Chariot*, Boston : Brill, 2001, p.113.

8 春分の主祭

PCは、神殿の東側から中央を向いて言う。

PC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。

I a H a V a H a （ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー）

H e V e H e I e （へイ・ヴェイ・へイ・イエイ）

V o H o I o H o （ヴォー・ホー・イヨー・ホー）

H I H V （へー・ヨド・へー・ヴァウ）」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。春分は到来せり。」

PCは、祭壇の東に立ち、西に向かってハーポクラテスのサインを行う。

PC：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

PCは、祭壇の西に廻り、東に向かってホルスのサインを行う。

PC：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

PC：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。

無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、

そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。

わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。

汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！

聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！

聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！

光と闇の主よ。」

9 諸天使の出立

PCは祭壇の北に行き、南を向く。

PC：「律法の宰相の加護に感謝する。

霊の虚の場所に戻りたまえ。」

PCは再度、祭壇の西に行き、東を向く。

PC：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。

ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー (𐤓𐤕𐤍𐤕𐤍)

万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。

ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー (𐤓𐤕𐤍𐤕𐤍)

戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。

光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。

主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。

主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。

律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

10 地上への帰還

PC：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

PC：「イエヘシュアーとイエホバシャーの御名において、

この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）光の法衣とともに儀式中に刻印された封印、その他の印は精妙界に去る。

その後、静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙が続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を採り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I : O : S :
RITUALE DE
AEQUINOCTIO VERO IXA

IMPRIMI POTEST: I : O : S :
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M. E. S. A. 5=6
MARTIUS MCMXCIX

春分儀式 VE 0 9 A

Copyrights © All rights reserved I : O : S : 2009

2009年3月15日 I : O : S : 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I : O : S : の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I : O : S : の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。

表紙写真：アラム語魔術鉢 推定年代5～7世紀